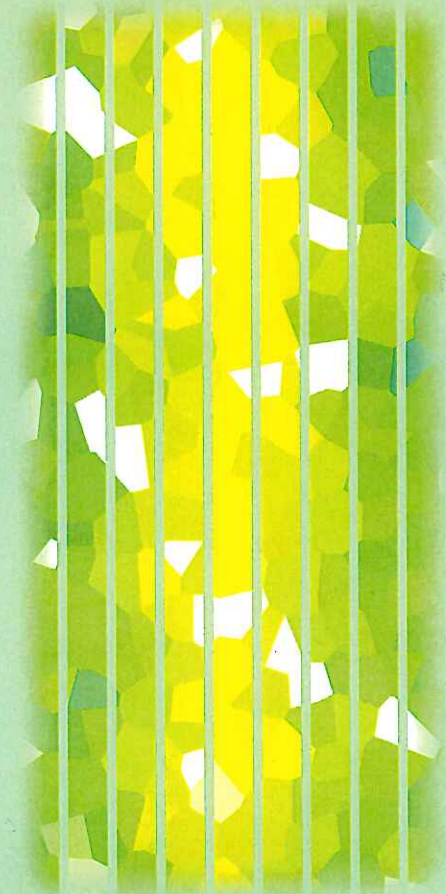


日本土壌肥科学雑誌

Japanese Journal of Soil Science and Plant Nutrition

— 土壌・肥料・植物栄養 —

第83巻 第6号 2012年12月



一般社団法人
日本土壌肥科学会

..... 書 評

環境・資源・健康を考えた 土と施肥の新知識

渡辺和彦・後藤逸男・小川吉雄・六本木和夫 著

B5版 255頁 価格2,000円(税別)

企画・発行 全国肥料商連合会,

発売 農山漁村文化協会, 2012年7月発行

農業者の方から「土壌肥料の話はわかりにくい」といわれる。これは土の中の世界が複雑であり、かつ生産のみならず地球環境にまで大きく関わっているとともに、土壌改良対策などがわかりにくい単位を伴った数字で表現されるからである。このため、現場の指導者は適切なテキストの選択に苦勞しているが、本書は、そのような現場の指導者向けの教科書として書かれた本である。

本書のタイトルは「土と施肥の新知識」の冠に、「環境・資源・健康を考えた」という言葉が据えられている。これまでに「環境」と「土壌」は語られることが多かったが、土壌は無限のバイオマス資源を生産するとともに、リン鉱石など有限の資源を活用している産業である。また、「土」と「食」と「健康」に大きな感心が寄せられている今、「資源」と「健康」をタイトルに入れたことは、新しい視点に立って書かれていることが理解できる。とくに健康については、植物生育に必要な元素と人の健康の関わりが強く記載されている。

本書は、1. 土壌の基礎知識、2. 植物の必須元素と栄養特性、3. 施肥の原理と肥料の種類・特性、4. 土壌診断と土づくり、5. 施肥の方法、6. 作物別特性と施肥法、7. 作物の栄養と作用機作、8. 作物のリアルタイム栄養診断の8章構成になっている。他に8つの「話題」、3つの「演習」の囲み記事があり、読ませる工夫がなされている。とくに演習は、現場の技術者向きに土壌改良に必要な計算が容易にわかる内容となっている。

このような細かい配慮は、執筆者の方々が、現場指導の経験豊かな研究者であり、現場指導に何が必要かに視点をおいて、基礎的なことから実用的なことまで幅広く記載されている。農業生産者や農業技術者はもちろん、研究者の方々にも読むことをおすすめしたい一冊である。

(明治大学農学部 藤原俊六郎)